

ケース スタディ

シェルハーバー市は、自然における田園環境と都市環境のバランスを重視し、そのバランスを持続できる町作りを目指している進歩的な自治体です。自然環境の保護と人工環境の改善に全力で取り組むところから、力強く多様な地方経済が育ち、安全で健康的、かつ教養と思いやりに満ちたコミュニティが形成されると信じています。



シェルハーバー市

シェルハーバー市はニューサウスウェールズ州イラワラ地区にあり、シドニーの中心部からはほぼ100キロ。現在の人口は6万ですが、2010年には7万5,000に増えると予測されていて、この人口増加をどう支え、管理していくかが、ここ数年、シェルハーバー市の最大の懸案でした。今日整備されているインフラストラクチャの多くは、同市の慎重かつ綿密な整備計画の成果です。

状況

地理情報システム (GIS - Geographical Information System) 班はシェルハーバー市の重要な一部であり、市の長期計画にも市民への日常サービスにも欠かせない存在です。GIS 班の最大の任務は、地理情報や土地情報の収集管理であり、たとえば、区画境界、道路名、市街区番号、道路センターライン、家屋番号、市内および市郊外の境界とゾーニングなどの情報を扱います。当然、高品質の地図や地図帳、その他の空間関連データを市当局・民間企業・一般市民に提供する義務も負っています。

市の将来展望とその成否は、ひとえに GIS 情報にかかっていると言ってもよいでしょう。経済計画から選挙区割りまで、市当局にとって地図の用途は多種多様です。市民も建築許可やゾーニング変更を申請する際に土地データにアクセスしますし、新企業の設立を目指す人々には豊富な不動産関係データが大いに役立つでしょう。

年に2,000人以上という爆発的な人口増予測を前にして、シェルハーバー市は地域の持続可能な成長のため、強固で信頼できる GIS インフラストラクチャを構築する必要に迫られました。求められているのは、既存の GIS システムを拡張できるエンタープライズレベルの GIS ソリューションです。このソリューションは、機能的に既存のシステムと同じことができるのはもちろん、市のどこにでも容易に配備できなければならない、費用効果が高く、スケーラブルで、使いやすい Web ソリューションを含んでいなければなりません。

市の将来計画から、市民への簡便な情報提供まで、ニーズはさまざまです。それをすべて満たしてくれるスケーラブルな GIS システムとは、どのようなものなのでしょうか。空間情報の管理プロセスを自動化し、デジタル マップとその関連情報を市の内外から閲覧できるようにし、貴重かつ膨大な空間データセット (マップ インターフェイスから空間データに至るまで) を市の中心に据えて、ハブとして機能させる……そのためには、どうしてもエンタープライズレベルの GIS ソリューションが必要です。

電子政府の実現と、住民や地元企業へのサービス向上を目指す GIS 班にとって、最大の難問は、各種問い合わせへのレスポンス タイムを短縮することでした。また、1日24時間、年に365日、費用効果の高い方法で (たとえば Web サイトを通じて) 市民に市情報を提供することも求められました。

市民からの問い合わせと応答には、従来、電話とファックスとメールが使われていました。すべてを市職員の勤務時間中に処理していたため、これに費やされる時間と人的資源は膨大なものでした。そこで、GIS Web サイトによるソリューションが提案されました。市職員・地元企業・市民の誰もがこの Web サイトにアクセスすれば、一般的な問い合わせへの答えを知ることができます。これなら従来の方法のような手間がありません。

ソリューション

シェルハーバー市の求めに応じ、MapInfo 社は2000年に MapInfo EasiMaps と MapInfo Encounter からなるエンタープライズレベルのソリューションを作成し、引き渡しました。この MapInfo ソリューションの秘める可能性について、シェルハーバー市の土地・地理情報システム部長 David Murphy 氏からは、「ユニークで、革新的で、市の GIS ソリューションを補完するもの」という感想をいただきました。

Web サイトに MapInfo 社の技術を配備する以前も、シェルハーバー市では MapInfo 社の技術を使用していましたが、それはファックス、電話、メールで送られてくる問い合わせに答え、市の発展に向けた戦略的計画を練るための一助としてであり、役所内部の作業に限定されていました。

その MapInfo 技術をデスクトップからエンタープライズソリューションにまで引き上げ、Web サイトに配備するに当たっては、MapInfo Access Program (MAP) の導入が大きなきっかけとなりました。MAP 導入後、すぐにすべてのデスクトップに EasiMaps が配備され、市役所全体が Encounter を利用した Web ベース技術に統一されました。

しかし、シェルハーバー市はそこで立ち止まりません。大きな役割を果たした Encounter Web サイトも、2004年11月には新しい Exponare Public 製品で置き換えられました。MapInfo ソリューションはすでに次の段階への一歩を踏み出しています。

MapInfo Professional エンジンの上に組み立てられている EasiMaps は、デスクトップ照会/マッピングシステムとしてまだ使われていますが、これも2005年中には MapInfo® Exponare™ に取って代わられる予定です。ユーザが空間データを探し、表示し、分析するうえではこちらのほうが便利です。高品質の地図を簡単に作れるというメリットもあり

Exponare はカスタマイズも実装も簡単な、スケーラブルなソリューションです。



本社/南北アメリカ本部

One Global View

Troy, New York

12180-8399 USA

518.285.6000 TEL

800.327.8627

518.285.6060 FAX

sales@mapinfo.com E-MAIL

www.mapinfo.com

アジア太平洋 / オーストラリア支社

61.2.9437.6255 TEL

1800.351.576

61.2.9439.1773 FAX

australia@mapinfo.com

カナダ支社

416.594.5200 TEL

800.268.3282

416.594.5201 FAX

canada@mapinfo.com

ヨーロッパイギリス支社

44.1753.848200 TEL

44.1753.621140 FAX

europa@mapinfo.com

株式会社アルプス社 法人事業部

〒106-6128 東京都港区

六本木 6-10-1

六本木ヒルズ森タワー28F

Tel: 03-6440-6318

Email: sales@alpsmap.co.jp



「将来的には、簡単な問い合わせに答える時間を減らせると期待しています。問い合わせる側にとっても、インターネットを使用することで費用を軽減できるはずですよ。わざわざ市役所のどこかに連絡しなくても、簡単に、スピーディに情報にアクセスできるわけですから」

David Murphy (シェルハーバー市土地・地理情報システム部長)

ます。Exponare Enquiry はユーザにとって使いやすく、機能も柔軟に調整できますから、空間情報ソリューションを組織全体に行き渡らせるうえで効果的です。

MapInfo Exponare は、イントラネット、インターネット、エクストラネットのどれにも適していて、市のデータを統合し、GIS に慣れていない人にもわかりやすい形で表示できます。たとえば、ある企業の所在についての問い合わせでは、企業そのものについての情報も取り出せますし、その企業がある場所(街区)についての情報も取り出せます。

Exponare はカスタマイズも実装も簡単であり、かつスケーラブルなソリューションで、MapInfo 社によって完全にサポートされています。さらに、データフォーマットが多様であるという利点があります。たとえば、MapInfo TAB ファイルからでも、Oracle Spatial ファイルや SpatialWare for SQL Server ファイルからでも、地図を直接表示できます。

シェルハーバー市では約 250 台の PC 上で EasiMaps が稼動していますが、その全部がいずれ Exponare Enquiry にアップグレードされ、イントラネットマッピングソリューションとして配備される予定です。

市の Web サイトは、以前は外部のホスティングに頼り、Encounter Online Mapping サービスを実行していました。今回、内部ホスティングの機会が生まれたことで、市は Encounter アプリケーションからの移行を選択せず、できるだけ早く Exponare Public を立ち上げることに決めました。

この新しい Exponare Public Online Mapping サービスでは、一般ユーザによるアクセスがいつでもやさしくなり、市の管理下にある公園やその他の公共施設はもちろんのこと、最新の道路名、個々の不動産情報、家屋番号群や街区図番号、等高線、ゾーニング、選挙区、ごみ収集情報なども、検索対象に含まれます。

シェルハーバー市では、また、4つの図書館に無料のインターネットアクセスポイントを設け、市民が自由に地図情報や不動産情報を検索できるようにしています。オンラインマップが

www.shellharbour.nsw.gov.au で見られます。

利点

MapInfo 社のエンタープライズソリューションがシェルハーバー市にもたらした効果には、実に大きなものがあります。市民の注目を Web サイトに集めることで、役所受付での問い合わせが減り、サポートスタッフとヘルプデスクの負担が軽減されました。しかも、市民への対応とレスポンスタイムは向上しています。市がデータと技術に投じた資金の費用効果は、非常に大きかったと言えるでしょう。

David Murphy 氏のコメントにも、「MapInfo 社の Exponare Public ソリューションが配備されてから、ユーザか

らのフィードバックが非常に肯定的になりました。内部ホスティングの利点と管理のしやすさが、すぐに目に見える形で現れてきた感じですね」とあります。

たとえば、土地測量コンサルタント、GA Goodman Consulting Group 社の Greg Goodman 氏は、「すごい発明だ」と言います。「電話にせよ、市役所へ乗りつけるにせよ、昔は1時間もかかっていた仕事が、いまじゃ1分もかからん」

同じく GA Goodman Consulting Group 社の Lauren Goodman 氏も「アップグレードが見事」と感嘆しています。「サイトのレイアウト、問い合わせ機能、印刷性能……どれも以前よりユーザにやさしいし、グラフィックスの改善ぶりなんてすごいわよ」

再び David Murphy 氏です。「市の Web サイトへのアクセス数がジャンプしました。市の職員も、地元の企業も、一般市民も、誰もがオンラインマッピング機能にアクセスして、住所やゾーニング情報、山火事情報、空中写真、選挙区情報、ごみ収集情報にアクセスしています。もちろん、市の公共施設についての情報もね」

「MapInfo 社のソリューションで、市にとっては空間データの維持管理が簡単になりましたし、データの正確さと信頼性も増しました。将来的には、簡単な問い合わせに答える時間を減らせると期待しています。問い合わせる側にとっても、インターネットを使用することで費用を軽減できるはずですよ。わざわざ市役所のどこかに連絡しなくても、簡単に、スピーディに情報にアクセスできるわけですから」

「プロジェクト全体で MapInfo 社の協力ぶりは特筆ものでしたね。市が今日こうあるのは、MapInfo 社の努力の賜物でもあります。デジタル化されたマップがいつでも取り出せるというのは、市にとっても、地元企業にとっても、個々の市民にとっても、実に効率がいいし、役に立ちます。マッピングの力に簡単にアクセスし、利用する……シェルハーバー市はそのための費用効果の高い方法を手に入れました」

MapInfo 社の技術とソリューションについてさらに詳しくは、www.mapinfo.com.au をお尋ねください。オーストラリア国内なら、1800 351 576 にお問い合わせいただくこともできます。

